



楽し、たのし！進む、すすむ！励む、はげむ！ われらの弦巻中学校

学校だより発行日 令和6年 5月22日

第2号 世田谷区立弦巻中学校長 加藤ユカ



東京都人権尊重教育推進校2年目「多様性を自分事として考える」ために… 校長 加藤ユカ

GWが過ぎ、紫陽花の花が赤・紫と美しく色づく季節となりました。3年生の修学旅行も例年より1か月早く、4月24日から実施されました。また、5月22日から1年生の河口湖移動教室がはじまります。通常の学級では、4年ぶりの2泊3日の移動教室となります。さらに、学校では、6月1日の体育大会に向けて、体育の授業を中心に練習に熱が入ってきました。今週から学年練習が始まり、来週は全体練習、予行練習、本番を迎えます。体育大会も、団結・協力を大きな目的に、学年種目・全員リレーが全員参加種目。そのほかに学級代表リレーや応援リーダーによる応援など、3年生のリーダーを核として、弦中生全員が1つになり、力いっぱい頑張る姿が見られます。70歳の誕生日を迎えた弦中。お祝いに7月26日（金）日没後、短時間ではありますが弦中自慢の広い校庭で「打ち上げ花火」を行います。弦和会より周年行事積立金の一部をいただき、地域の方、同窓会等でもご協力を募っています。花火募金をはじめます。生徒の皆さんもぜひご協力お願いします。校長室前に募金箱を置いておきます。

さて、今月は、先日行われた九州・ナガサキ修学旅行のお話をしたいと思います。

- 一つ、平和な今の日常に感謝します
- 一つ、優しさをもって、人と接します
- 一つ、命について、戦争について考えを深めます

今年度の長崎平和記念像の前で平和集会での生徒による「平和宣言」です。前文は次のようです。
<前文>

ウクライナ紛争やイスラエル・ガザ戦争など、「平和」について考える機会が多くなっています。私たちはこの「平和」について考え、2年かけて学び、考えを深めてきました。

ここ長崎で原子爆弾によって多くの人の命が奪われ、「平和」が乱されたという過去があります。私たちは平和学習における1つの区切りを長崎で迎えることになりました。「平和」とは何か、得た知識を活用し、自分で考える段階です。「平和」とは何か、一人ひとりが自分の意見を持っていると思います。中学校での平和学習が終わっても、日々「平和」について考えることが、「平和」を目指すための第一歩だと思います。

争いのない、完全な「平和」は実現できないかもしれません。しかし、人類が皆共生できる世界を目指すこと、出来ないと分かっているにもかかわらず目指すことが、少しずつ世界をいい方向へ変えていくと思います。

明日に望みを託して、次を私たちの平和宣言とします。



3年生の生徒会役員メンバーさん、さん、さん、

さんを中心として、平和宣言づくり、折鶴プロジェクトで完成させた「千羽鶴」を献納しました。

今年の3年生が打ち出した3つの平和宣言は、前文にもあるように、2年かけて学び、深めてきたものです。

「平和」とは何か、得た知識を活用し、自分で考える段階です。『原爆』が2度落とされた日本に生まれ育ち、中学生を迎え、修学旅行にナガサキを訪れた、この意味は大きいと思います。「平和」とは何か、一人ひとりが自分の頭で考え「答え」を見つけていくことにつながります。将来への大きな宿題です。3年生にとっては、中学校生活があと1年、修学旅行が終わっても、「平和」への学びは続きます。

弦巻中学校での九州・ナガサキへの修学旅行は、今年で3年目になります。修学旅行の行き先をナガサキに決めたのは、「ナガサキ」は、戦争・原爆の犠牲、命の尊さなど「平和」について体験し、学びを深めることができる場所だからです。ここまでに学んできた「人権・平和」学習は、将来、自分も周りの人も人権を脅かされない、平和で安心した「共生社会」の実現に向けて大きな力になります。また、自他ともに差別や

偏見に出会った時に、正しい行動ができるように「自分の心に人権・平和の砦を創る」ことにもなるはずで
す。過去の戦争の記憶が薄れていく今日この頃、今この世界では紛争や戦争が絶えない、感染症などに対
する人権侵害、ヘイトスピーチなど、言われなき差別、人権侵害の問題が根強く残っています。若く心が柔軟
な時期に、過去の戦争等を振り返り、「命の尊さ」を感じ、「差別や偏見は許さない」という強い気持が強く
心に刻まれていくことが、真の平和の実現につながります。京都・奈良も日本古来の文化遺産がたくさん残
っているところです。私は、奈良の大仏よりも、ナガサキ平和記念公園に建てられた平和記念像を目に焼き
付け、心に平和の火をともし続けてほしいと思うのです。

さて、弦巻中学校は、昨年度から人権尊重教育推進校となり研究をすすめてきました。今年度2年目の取
組となります。昨年度の卒業生の中に、弦中で人権・平和の勉強をしたことが一番心に残っていると言っ
てくれた生徒がいました。皆さんが社会に出た時に、様々な人権問題にぶつかるかもしれません。その時に、
知らなかった、知識がなかったことで、自分が差別する側の人にならないように、しっかりと学んでほしい
と思っています。だから、今弦巻中では、「人権・平和学習」なのです。現2年生は、すでに昨年度の学校だ
よりでお知らせしていますが、来年の7月に「ヒロシマ」に行きます。そして、「命」をテーマにした大阪万
博への参加、最終日は大阪市内班別自主行動を計画しています。ナガサキへの修学旅行とは、また一味違っ
たものになると思いますが、今後も「人権・平和学習」を積み上げていきます。

九州・ナガサキ修学旅行を終えて

沼田 駿



4月24日～26日まで弦巻中学校では3回目となる九州・長崎方面への修学旅行
に行ってきました。羽田空港での集合は、雨の中での集合でしたが、九州・長崎での
3日間は天気に恵まれ実施することができました。

初日、羽田空港第2ターミナルへみんな笑顔で集合。出発式を行い、多くの保護者
の方に見送られる中、無事に羽田空港を出発、2時間ほどの空の旅を楽しみ、長崎空
港に着陸しました。長崎空港に到着後バスに乗り、長与町海洋スポーツ交流館へ。学

年主任熊谷先生の「みんなで一緒にのこを楽しみたい」という思いが詰まったペーロン体験。
櫂を持ち、クラスごとに細長い船に乗り込み、太鼓と銅鑼の音に合わせ、掛け声をかけながら
漕ぎました。最初は息が合わず、全く進まないクラスもありましたが、慣れてくると思った以
上にスピードが出ていました。2回戦で行われた競漕では、1回戦がA組、2回戦がB組の勝
利。総合タイムで、A組の優勝でした。風があり、少し波がある中で、人によってはびしょ濡れ

になりながらも東京では普段体験できない経験をみんなで楽しむことができました。I組は、染め物体験と
ペーロン競漕の応援もしました。その後、この修学旅行のメ
へ。車窓から被爆地を眺めながら、平和公園へ。大きな平和
誰もが平和を祈らずにはいられない気持ちにさせられまし
の下で、私たちは平和集会を行いました。代表の生徒による
員で作った折り鶴を奉納し、黙とうを捧げました。「平和」
ることが「平和」を目指すための第一歩だと改めて気づかさ

2日目は、長崎さるく「平和コース」と班別自主行動です。
崎弁で「ぶらぶら歩く」という意味です。2台の貸し切り路面電
園へ向かいました。平和公園に到着した班からさるくガイドさん
た。長崎さるくでは、原爆の被害にあったスポットをガイドさん
回り、最後に原爆資料館を見学しました。実際に話を聞きながら
の悲惨さや原爆の恐ろしさを改めて実感しました。班別自主行動
めたコースを巡りました。班長を中心にみんなで協力して、長崎の文化や食に触れてきました。外国人の方
と交流した生徒や地元の方と交流した生徒も多くおり、多様な学びを実現させました。夜は長崎市役所に夜
景鑑賞へ行きました。熊谷先生の「みんなで同じものを見たい」という思いで、ホテルから歩いて市役所の
屋上へ。長崎市役所も昨年1月に新庁舎となり、新しい観光地の1つとなっています。その屋上で、世界的
にも有名な長崎の夜景を学年全員で堪能しました。

3日目。吉野ヶ里遺跡で弥生時代の体感し、太宰府天満宮で学問の神に未来を祈る生徒もいました。過去
を知り、未来に期待を持ちながら、現代を生きる私たち。この3日間はあるという間に過ぎたと思
います。これまで積み上げてきた学習、平和への思い、みんなで共有した思い出の数々が一生の宝物になることを願
っています。

例年より早い時期の実施で、教員も焦るなか、修学旅行実行委員の生徒を中心に2年生の後半から行った
綿密な準備のおかげで、安心安全に修学旅行を終えることができました。この修学旅行が実施できたことに
感謝の気持ちを持ち、下級生へこの経験を伝えてほしいと思います。



インとなる平和学習
祈念像の前に立つと
た。雲一つない青空
「平和宣言」、学年全
とは何か、考え続け
れました。

「さるく」とは、長
車に乗り込み平和公
とともに出発しまし
のお話を聞きながら
回ったことで、戦争
では、自分たちで決



<キャリア・パスポートの活用について>『自分の将来を自分でデザインする』

「ウェルビーイング」(Wellbeing)という言葉を知っていますか。最近、よく聞くようになった世界的に注目されている言葉です。ウェルビーイングとは、「well=よい」と「being=状態、在る」が組み合わされた言葉で、人の「良い状態」、「良く生きる在り方」を意味します。良く生きる在り方は、人それぞれに異なっているために、自分自身はもちろんのこと、他者のウェルビーイングを尊重することが大切になります。OECD教育2023プロジェクトの教育の目標は「個人と社会のウェルビーイングの増進である」と提起しています。人の価値観も多種多様な社会の中で、自分も他者も幸せになる生き方を考えることは、これから生きる私たちにとって本当に大切なことだと思います。学校でも、「ウェルビーイング」を学び、「人間の幸福とは何か」を考えていくことが求められています。でも、人は幸せになるために生まれてきたのですから、当たり前のことと言えば当たり前のことなのかもしれません。



さて、今年度も弦巻中学校「キャリア・パスポート」の活用の充実を図っていきます。小学校から持ってきたキャリア・パスポートは、中学・高校とつながります。この取組の目的は、発達段階に応じて、学校の様々な活動を通して、将来生きていくための能力を身に付ける、将来より良く生きて行くためにはどうしたらよいか「自分の生き方」を見つめ直し、そして、自分の進路を自分で決めていく力を養うために活用されていくものです。表紙には、「自分の将来を自分でデザインする」「なりたい自分を見つける」「なりたい自分になる」「自分を磨く」と書かれてあります。自分で目標を設定し、実際に取組、振り返ることを通して、自分自身を知り、どんな自分になりたいか、自分の将来の生き方を考え続けてほしいです。

弦巻中学校のキャリア教育の具体的な取組として、1年生では「職業調べ」2年生では「3年生の話を聞く会」「職場体験」や「上級学校調べ」「都立高校の先生の訪問授業」など、3年生になると「上級学校訪問」などがあります。その他にも「体育大会」「学芸発表会」「校外学習」「人権平和学習」「SDGs」「人権講話」「ボランティア活動」などの学校・学年行事・地域活動等も含まれます。この3年間のキャリア教育が、卒業後の自分の進路を自分で選択することにつながっていくのです。

キャリア教育は、中学校で終わるわけではありません。また、ご家庭や地域の方々との連携も欠かせません。保護者の皆様には、通知表と一緒に、「キャリア・パスポート」をお返ししますので、ご覧いただき、話題にいただき、人生の先輩として、良きアドバイザーになってください。今後も様々なご協力をお願いする機会もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

離任式 5月2日(木)



転入された先生方をお招きして、令和6年度離任式を行いました。始まり約1か月がたち、新しい学校にも慣れてきた頃だとされた先生方には、代表生徒の感謝の言葉と花束贈呈のメッセージをいただきました。I組主任の遠藤先生からは、「今と同じI組です。弦中のI組みたいなクラスを創りたいです。」先生は御蔵島から来てくれました。「今いる学校はとても生人数で生活することがありません。合唱も全員同じパートです。クラス替え環境で、新しい仲間とぶつかり合うこともあると思いますが、大勢の人と関わります。大切にしてください。」黒澤先生は、「終業式で、「優しさ」について、お話「いっぱい」とは。弦巻中には、優しい先生、おいしい給食があります。青・ています。」田中先生からは、「弦中生は、お話を聞いている姿勢が素晴らしい。あいます。また、すれ違うたびにかならずあいさつをしてくれます。」すまい先生は「今小学校で働いています。小学校が中学校につながるということを実中学時代はとてもいい時。毎日を大切にしてほしい。」最後に、上條先生でも「とても楽しかった。とても楽しかった。」とおっしゃっていました。最後に、全員で「校歌」を熱唱しました。新しい学校でも、元気で活躍されることを祈っています。今まで本当にありがとうございました。



ました。新年度思います。離任と、心温まるメの学校も弦巻中音楽科の中瀬古徒が少ないのもあり、新しい経験は貴重でした。次は、赤学年を応援しみんなと視線がる専門員の小林感じています。た。「弦中生はと

